



「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate your thoughts in your early days

若き日に汝の体躯を養え

Nurture your body in your early days

若き日に汝の智能を磨け

Develop your intellect in your early days

若き日に汝の希望を星につなげ Aim your hopes towards the stars in your early days

TOP*NEWS

東海カルチャーセミナー 4年ぶりに開催 中等部・高校吹奏楽部 定期演奏会開かれる

みんなで作りあげた 定期演奏会

中等部吹奏楽部部长
3年B組 高橋 麻椰

私たちは、12月28日に第15回定期演奏会を港区の赤坂区民センター区民ホールで行いました。今年度は2年連続東日本大会への出場、金賞受賞という功績を残すことができた思い出深い年になりました。

私たち3年生にとって、最後の舞台となったこの演奏会ではコンクールで演奏した「Cabin Crew」をはじめ、クラシックやポップスなどさまざまな曲を演奏しました。2部では曲のテイストや衣装を替え、1部とは違った雰囲気でもてくれたお客様と一緒に盛り上がることができました。

ここまでやりきることができたのは、日々お世話になっている先生方、そして日頃から支えてくれる保護者と部員みんなのおかげだと思います。これからも中等部吹奏楽部をよろしく願います。



集大成

高校吹奏楽部部长
3年7組 相馬 理吏亜

1月6日と7日にミュゼ川崎シンフォニーホールにて第34回定期演奏会を行いました。私たち3年生にとっては高校生活最後の演奏会でした。曲目は第1部にクラシック、第2部は1日目がマーチング、2日目はポップスとさまざまな曲をお披露目しました。どの曲もお客様に自分たちの精いっぱいの演技、演奏をお届けすることができ、やりきって終わることができて幸せな気持ちでいっぱいです。このような素敵な演奏会を行えたのも校長先生をはじめ、

先生方、保護者の皆様のおかげがあってこそだと思っています。いつも支えてくださる方々への感謝の気持ちを大切に、そして今回の経験を人生の糧にしてこれからも邁進していきます。

12月9日 東海カルチャーセミナーが 開催されました

日本サッカー協会参与
日本障がい者サッカー連盟会長

きたざわ つよし
サッカー元日本代表 **北澤 豪 先生**

東海カルチャーセミナーが4年ぶりに開催されました。今回は、東京都教育委員会の「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」事業を活用して、講師としてサッカー元日本代表の北澤豪(きたざわ つよし)先生をお迎えして生徒・保護者合わせて約800名に対して『自分を知ることが夢へのステップ』というテーマでお話しいただきました。

北澤先生のご講演に会場全体が自然と引きつけられ、先生から何名かステージに上がってくるように求められた時には、生徒たちは自らステージに上がり、積極的に行動して、自分の意見を述べていました。

90分という短い時間でしたが、生徒たちは、自分自身のことを深く考えるより良い機会となりました。



2023年度学校運営方針

実践目標

**「教科の学習」だけでなく、「教科外活動」を積極的に
取り組ませることによって、より豊かな人間性を育てる**

中学・高校の学習指導要領において、特別活動(学級(ホームルーム)活動、生徒会活動、学校行事)が「教科外活動」の中に位置づけられており、目標として、これらの活動を通して「集団や社会の一員としてより良い生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」と掲げられています。

本校では、これを実現するために、中等部では、全体で合唱祭を実施したり、各学年で研究施設見学(1年:江戸東京博物館・2年:日本科学未来館、科学技術館・3年:国立科学博物館)、芸術鑑賞(1年:落語鑑賞・3年生:歌舞伎鑑賞、「ライオンキング」鑑賞)などさまざまな行事を実施しています。また、企業の協力を得てキャリア教育を行い、生徒たちの仕事に対する関心や意識を高め、職業観を育てる取り組みも行っています。高校では、1年生で、各クラス2回、茶道の先生をお迎えして、日本の伝統文化に触れ、茶道の作法を通して礼儀作法を学んだり、2年生では、港区選挙管理委員会の協力のもと主権者教育を実施して、18歳成人を見据えて社会参画する態度を養っています。

部活動は、本校の教科外活動の中で大きな役割を果たしており、例年新入生の部活動への加入率は約90%に達します。生徒たちは、自身の技量を高めるだけではなく、目標に向かって努力する姿勢や諦めない姿勢を学び、先輩・後輩の関係を通して、年齢や考え方の違う仲間と協力して同じ目標に向かって努力する経験をします。そして、目標を達成したときの達成感、充実感は計り知れないものがあります。これまで、多くの部活動が関東大会、全国大会に出場して成果をあげています。

学生の間に、世の中の多くのものを見たり、経験したりすることは、将来、社会生活を送る上でとても大切なことです。本校では、教科指導、教科外活動を通して、生徒たちが、将来生きていく上で、指針となるしっかりとした「ものの考え方」を身につけることができるようサポートしています。

SSH活動報告

ファミリー・スーパーサイエンス教室

12月24日に本校でファミリー・スーパーサイエンス教室が行われ、本校SSHクラスに所属するSSH委員の生徒たちが主体となって、地域の小学生を対象に演示実験や体験型の実習を行い、大盛況でした。活躍した生徒たちの感想をご覧ください。

実験を担当して

1年10組 **色川 春花**

ファミリー・スーパーサイエンス教室では、うまく先輩との連携が取れなかったと感じました。今後は、わからないことは事前に聞き、進捗状況を確認するように心がけていきたいと思っています。今回、ドライアイスの実験を担当しましたが、シャボン玉の中にドライアイスが気化した二酸化炭素を入れる実験をしたことで、子どもたちがすごく楽しそうに実験をすることができたのが良かったです。しかし、途中の水替えや、ドライアイスをわたすのが遅れたこともしばしばあったため、もっと気配りが必要だったと感じました。今回、自分の未熟な部分があり、良い経験になったので、今後の活動につなげていきたいと思っています。

当日の実演の苦戦

2年10組 **島本 武周**

ファミリー・スーパーサイエンス教室では、リバーシブルパズルやハノイの塔、マッチ棒の並び替えなどを小学生に原理を説明したり、実演して見せたりしました。準備をしているときは、原理の説明はあまり難しくなかったと思っていましたが、当日実演して質問をされたときに、実際に何をしているものなのかを説明することは意外と難しいことなのだ改めて気づきました。特にハノイの塔では、高校の授業で習うような数式を小学生にもわかるように、簡潔に説明することに苦戦しました。

一歩引いた立場での経験

3年10組 **須藤 礼名**

事前の準備、当日も滞りなくうまく回すことができました。1年生や2年生が積極的に動いてくれたことで、3年生である私が引っ張っていく必要がなく、とてもやりやすかったです。来年度からも安心です。来校した小学生、保護者の方へ話をするだけでなく、学校生活やSSH活動に関する質問に答えることでコミュニケーションをとることができたので、良い経験となりました。



液体窒素でバラバラバラだ!



気化熱でツリーを作る



ドライアイスの講義



葉脈標本できるかな

作文コンテスト



中等部では高校生の「小論文コンテスト」実施に併せて、作文コンテストが行われました。今回の課題は「『言葉の持つ力』について、あなたの経験をもとに書きなさい。」でした。中等部3年での高校推薦入試、高校3年生で東海大学進学希望者全員が受験する「小論文試験」を見据えての練習を毎年しています。各学年のグランプリ・準グランプリ受賞者と、グランプリ作品を紹介します。

1年グランプリ

1年A組 三井 陽菜乃

私が思う言葉の力とは、「言葉は人を元気にできるが、その逆もある」ということです。

私の好きな本に、「逃げたいなら逃げればいい。そしたら誰かが手を差し伸べてくれる。」という文があります。私はこの内容から勇気をもらうことができました。読者のコメント欄を読んでも、私のように「勇気や希望を与えてもらった」という人がたくさんいました。しかし、残念ながら、「誰も助けてくれなかった」や「そんなのはきれい事だ」などの厳しいコメントもありました。著者は、読者が言葉によって救われるように書いたのだと思いますが、それが言葉の刃物として心に刺さってしまうもいたようでした。

このような経験から、私は言葉とは人によって伝わり方がそれぞれ違うことを知りました。言葉を上手く使うことができれば、相手に元気や勇気、また希望を与えることができます。しかし、逆に間違った使い方をすることで、言葉の刃物として一生その人に刺さり続けてしまうと思います。

私はこれから、自分の発する一つ一つの言葉が温かい優しい人になりたいと思っています。そのため、今とても苦しみつらい思いをしている人には、軽く考えた寄り添う言葉ではなく、その人を一生支えられることのできる言葉をかけていきたいです。

2年グランプリ

2年B組 稲田 雅紀

言葉には人を動かす大きな力があります。人は言われた言葉によって結果を残すことができます。これは自分自身が身をもって体験したことです。

今年の夏、サッカー一部の新人戦がありました。新人戦前夜に友人から一通のメールが来ました。その内容は「明日の試合頑張れ」というものでした。当時私は、ありがとうと思うだけでした。しかし、試合中に、昨夜言われたことを思い出しました。試合中、耳もとでその友人に「頑張れ」と言われたような気がしたのです。それまで緊張していた私は、一点を取ることができるところにまで成長できていました。結果は負けてしまいましたが、友人の「頑張れ」のおかげでゴールを決めることができました。

「頑張れ」という言葉には、人を奮い立たせ結果を残すことができるとも大きな力があるということを通して学ぶことができました。だからその友人にはこう伝えたいです。「頑張れと言ってくれてありがとう」と。そして、私も友人のように言葉で人を励ますことができる立場になれるように努力したいです。

3年グランプリ

3年A組 連 彩絢

私は、言葉という単語を聞いて真っ先に浮かびあがってきたのは、批判や心ない言葉です。もちろん言葉は人を感動させたり、楽しくさせたりする力を持っていますが、その反面人を最悪の場合死に追い込む事までできるほどの大きな影響力を持っているのが言葉だと思います。

私は、部活で皆の前に立って指示をする事がよくあります。前に立って指示をすると聞こえてくる言葉。それは決して良い意味だけではありません。ですが一つでも心ない言葉が聞こえてきただけで、嬉しい言葉も耳に入りづらくなってしまいます。聞こえてきたら悲しい気持ちにもなるし、自信ややる気も薄れていきます。

言葉は本当に使い方が難しいと思います。うまく使えば、様々な人と出会い人生の幅を広げられるし、悪く使えば殺人だっておこす事もできてしまいます。自分は悪気がなくなんとなく相手に投げかけた言葉でも、相手は嫌がっているかもしれないなど言葉の使い方を改めるだけではなく、視野を広くするのとても重要だと思います。自分から出てくる言葉の意味や重さなどを、しっかりと考えてこれから人と関わっていききたいです。

1年 グランプリ A組 三井 陽菜乃
準グランプリ B組 佐藤 勇斗

2年 グランプリ B組 稲田 雅紀
準グランプリ A組 山本 心和

3年 グランプリ A組 連 彩絢
準グランプリ B組 三ヶ尻 圭秀



入賞してニコリ
写真左から 三ヶ尻君、連さん、山本さん、稲田君、佐藤君、三井さん

2023年度 小論文コンテスト

2023年11月9日(木)、高校3年生で東海大学進学希望者全員が「小論文試験」を受験しました。同じく、高校1・2年生は「小論文コンテスト」という名の下に同一テーマで小論文に挑戦しました。これは1年後、2年後のための予行練習という位置付けで行っているものです。

今年度は『今のあなたにとって、最も大切な「もの」は何ですか。「もの」は人・場所・気持ちなど、どんなものでも構いません。最も大切な「もの」を頭に思い描きながら、それを選んだ理由について、具体的な例や経験を交えて述べてください。』というテーマでした。

1年生、2年生からそれぞれグランプリと準グランプリが選出され、1月の朝礼で表彰がありました。以下に作品を紹介します。



左から 井上さん、アフマド君、岩岡さん、関君

高校1年生 グランプリ

1年10組 関 和弥

今の私にとって、最も大切な場所は、「家のお風呂」です。

私は小さい頃からお風呂が大好きでした。学校や習い事、部活から帰ってお風呂に入ると、とてもリラックスできて疲れが洗い流されるような気持ちになります。悲しいことがあったり楽しいことがあったときは、お風呂で涙山泣いたり歌ったりしました。

そんな私の家での仕事は、毎日のお風呂掃除です。私にとってお風呂がリラックスできる場所であるように、家の人達にとっても、お風呂がリラックスできる場所になるよう、隅々まで綺麗に洗っています。

しかし、私の周りの友達はお風呂が苦手な人が多く、シャワーだけで済ます人がどんどん増えています。私は昔からお風呂が好きだったものの、小学生のときは少しでも多くの時間を遊びに使いたくて、シャワーだけの日が沢山ありました。ですが、思春期に入ったばかりで、悩み事が増えていた私は、お風呂でリラックスする時間を取らなかったことで、どんどん悩みが大きくなってしまいました。そんな時に、1度ゆっくりお風呂に入っていたら、自然と涙が出てスッキリしました。

このことからお風呂は私にとって、最も大切な場所で、欠けてはならないものだと感じました。なので私は、これからも隅々までお風呂を綺麗にしていきます。

高校1年生 準グランプリ

1年4組 岩岡 珠実

今の私にとって、最も大切なものは「将来の夢を実現させる」という目標です。

私はこの目標があることにより勉強や部活動を頑張れていると思います。今は夢を実現させるために準備している段階なのでこの目標を持たずに、ただ高校生活を楽しくしているだけだったら後悔すると思います。なぜなら、私は中学生のとき、卒業後の進路を決めるのに長い時間悩んできたからです。私は将来、助産師になりたいと思っています。そのため、私が中学のときに考えていた進路は看護科のある高校に入学することでした。実際にそのような高校に行って、簡単な実習をしたり、実習室などの校内見学もしました。そのときには、ここに通えたら看護師の資格は取れて助産師の夢も近づくと考えていました。しかし、その高校が地方にあるということや、中学校を卒業して基礎的な学力が十分でないまま看護の勉強をしてもいいのかという不安があったために、この学校に行くことをあきらめました。だから、もし今、勉強や部活動がよくて看護科に進めなかったら、「あんなとき違う進路を選べば良かった」と後悔します。そうならないために、今しっかり「夢を実現させる」という目標をもち、勉強だけでなく部活動にも励んでいます。そして高校卒業後は看護学科に進み目標に近づいたら嬉しいです。この考えが私の大切なものに対する理由です。

高校2年生 グランプリ

2年10組 アフマド アル シェッヒ

日本に留学生として来ている私は、年に2回しか家族のもと、UAEに帰国できていない。イスラム教徒の文化や伝統では、母と過ごす時間を必ず作る事が昔から伝えられている。

2006年に長男として生まれてきた私は、母そっくりの顔で、誰よりも母に愛されてきた。小学生の時には、友達とけんかをして殴られた時にはすぐ怒ってくれた。また、サッカーをしていた僕に欲しいスパイクやユニフォームを数え切れないほどに買ってきてくれた。困っている時や悩んでいる時には、必ず母に伝えていた。私の悩みを解決し、私を幸せにしてくれると知っているからだ。私以外の場面でも、皆に笑顔で接し、平和を感じさせてくれた。生活に困っている人を助けている場面を数多く見てきた。皆を助けている母の背中を支えようと考えている。遠く離れている母でありつつも、いつも私に勇気をくれる。仕事の面でも、家族のことを考えてくれて一生懸命働いてくれる。

このように、私の生活はすべて母からできている。遠く離れている私と母の心はいつも繋がっている。今まで支えてくれたことを感謝し、勉強や運動を頑張り、私が母を幸せにしていきたい。

高校2年生 準グランプリ

2年8組 井上 伊代

この世界には、何不自由なく生まれてきたという人がたくさんいる。それは、お金があるから生きてこられたのだろうか。また、住む場所があるから生きてこられたのだろうか。いや、どちらも違う。人とのつながりがあるからこそ、今日まで生きてこられたのだ。

たしかに生きていく上では、お金や住む場所、着るものや食べるものは必要不可欠だ。だが、それらはどのようにして自ら自由に使えるようになったら。働く場所があり、雇われ、働いて給料をもらう。このように、勝手にお金がどこから湧き出てきて自由に使えるようになったのではなく、人から別の人へバトンをつなぐように渡り、自分のもとへとやって来たのだ。つまり、お金に限られたことではなく、私たちが生きていく上で使用している物は、全て人とのつながりがあったからこそ存在している。つながりなく生きてはいけないのだ。

今日も私は、何かに苦しむことも何かに困ることもなく日常を送っている。両親はもちろんのこと、数えることのできない多くの人々のつながりで生きている。だが、つながりを受けるだけでなく、受けたそのつながりをまたつなげていくことが大切だ。バトンを渡し、それが誰かのためになることを願って。



学年だより 中1



キャリア教育・校外活動

後期中間試験明けの11月30日(木)にキャリア教育で、元Jリーガーで、現車いすバスケットボール男子日本代表のヘッドコーチを務める京谷和幸さんをお招きして講話をしていただきました。
また、翌12月1日(金)には、両国にある「お江戸両国亭」にて日本の伝統文化である寄席鑑賞を楽しみました。

キャリア教育

挑戦することの大切さ

A組 四岡 玲奈

京谷さんの講話で一番印象に残ったことは、事故に遭っても新しいことに挑戦するということです。京谷さんは幼い頃からサッカーに対し熱心に取り組み、プロサッカー選手として自分の夢を叶えました。そんな矢先、交通事故で下半身不随になってしまい、サッカーの道が途絶えてしまいました。しかし、絶望の中から車いすでもできることを探し、車いすバスケットボールに出会いました。その後、京谷さんは車いすバスケットボールの選手となり、多くの大会で活躍しました。
私も部活動でバスケットボールに携わっています。まだまだできないことはたくさんありますが、京谷さんのように新しいことに挑戦し、何事にも諦めず最後まで努力したいと思いました。

出会いと諦めない心

B組 川口 卓真

私が京谷さんの講話を聞いて特に心に残ったことは、主に2つあります。1つは、たとえ自分にとって悪いことであっても、そのすべてが出会いだと思っているところです。京谷さんは自身の交通事故でサッカーができなくなっても、スポーツをしたいという強い気持ちがあり、プロの車いすバスケットボール選手になったことを、良い悪い関係なくすべてを出会いだと思えることと感動しました。もう1つは、たとえ身体が不自由になっても、大好きなスポーツをするために、決して諦めないで頑張り続けたことです。私も京谷さんのように、何事にも諦めずいろいろなことにトライし、今後何が起きようとも、すべて出会いだと思って頑張りたいと思います。



真剣に聞いています



質問タイム



京谷さんと握手

校外活動

人を楽しませる落語

A組 大渡 志穂

落語といえば、主に年配の方の娯楽だと思いましたが、私たちのような年齢でも十分に楽しめるものでした。それに落語には多くの種類があり、一人ひとりの個性によって内容が変わるのだと思いました。また、言葉だけではなく、さまざまな道具を使って観客を魅了していました。落語家は、自分なりに工夫やアレンジをして、どんな年代の人にも理解してもらえるようにしていることがわかりました。実際に落語を見て、たくさんの面白い話を聞くことができました。
今後落語を見に行く機会があれば、ぜひ行きたいです。そして、もっと幅広い年齢層にも知ってもらい、ずっと語り継がれてほしいと思いました。

語り継がれてきた伝統

B組 赤松 蕾

今回の寄席鑑賞では、さまざまな落語を聞くことができました。ただ話しているだけなのに、話の内容をよく理解することができたので、どのように話せば相手によく伝わるのかが知りたくなりました。また、扇子やハンカチ、紙ばさみだけを使って、何をしているのかわかり、それだけで観客を楽しませていたので、本当に落語家の表現力はすごいと思いました。
落語というものは、昔から現在に至るまで人を楽しませることができる伝統話芸として、代々伝わってきたのだと思うと、どれだけ落語が昔から人気だったのがよくわかり、これからも伝えてほしいと思います。私も落語の魅力をいろいろな人に伝えたいと思いました。



体験コーナー



落語家に見えますか?



素敵な切り絵をいただきました

学年だより 中2

スポーツ大会・キャリア教育・校外活動(日本科学未来館)を通して

スポーツ大会

11月30日後期中間試験明け、元気に中部部皆でスポーツ大会を実施しました。まさかの…A組初勝利!? に大興奮でした。

A組 清瀬 太杜

なんと、初めて勝つことができました! ドッジボールやソフトバレーでは、皆で協力をして取り組むことができました。個人の競技には周りの皆が応援していました。このように皆で団結して、楽しみながら真剣に取り組むことが大切なのだと思います。

B組 寺岡 崇斗

僕がスポーツ大会で学んだことは、みんなで力を合わせて頑張れば、勝敗関係なく楽しいということです。今回のスポーツ大会は負けてしまいましたが、ドッジボールやバレーボールで、みんなで声をかけ合いながら白熱した試合ができたので楽しかったです。来年度は勝てるように頑張りたいです。

B組 真弓 叶子

ソフトバレーが一番熱したと思う。一点を取るために皆が必死になりすぎ楽しかった。点を取れると皆自然にハイタッチをして、仲が深まったと思う。結果的には負けちゃったけど、とても楽しかったので満足しています。



キャリア教育

元Jリーガーで活躍していた京谷和幸さんが、不慮の事故で車いす生活に…。そこから車いすバスケットボール選手になるまで、そして現在のご活躍を真剣に聞きました。

A組 滝田 響

京谷さんが事故に遭った時とその後の人生について話を聞いた。彼の人生で起きた話私の今後の人生の役に立つと思った。握手をさせていただいた時、その手がとてもごつくて大きかったのが印象的だった。こういう話を聞くことができたのはとてもありがたいので、大事にしていきたい。

A組 山入端 輝

今回のキャリア教育では、京谷和幸さんをお招きして、彼の人生から大切なことを学びました。交通事故をマイナスだと考えず、逆にプラスだと考えて自分で何ができるのかを見つける京谷さんの、プラスの思考がとても感銘を受けました。

B組 早見 幸太

京谷さんのお話はとてもためになり、パワーももらえた。またバスケをやっている身として、「好きなことの努力は努力と言わない」とおっしゃっていて、確かにその通りだと思った。今回のお話を聞いて、京谷さんのように自分を信じて、バスケにより一層真剣に取り組もうと思った。



校外活動

12月1日、校外活動として日本科学未来館に行きました。そこで学んだこと、感じたことを紹介します。

A組 新居 健志

日本科学未来館は身の回りのこと、自分たちの将来起こる体の機能の変化を見ることができました。特に私が印象に残ったのは未来逆算思考というもので、未来に自分の思いを、将来のコースの障害物をよけながら何年先に伝えられるのかというゲームでした。これは重要だなと思いました。

A組 上田 華凜

校外活動では、日本科学未来館に行った。事前に写真で見ていた大きい地球儀があったり、プリクラ撮影機みたいなものや、とてもモフモフしたかわいいうアザラシのロボットなど、たくさんの興味深いものがあった。また、二酸化炭素の移動みたいな説明機械がものすごくわかりやすく勉強になった。

B組 遠藤 直輝

最初に出た感想は「すごい!」でした。特に気分が上がったのは、大きい地球儀を見た時です。そこまで上がる坂が周りにあり、壮大できれいでした。また驚いたのは、ロボットです。さまざまな難しい機能が使われていて、今の科学はこんなこともできるんだと思いました。小さな発想がさまざまな可能性を秘めているということがわかったので、これから役立てていきたいです。



学年だより 中3

劇団四季『ライオンキング』

12月1日(金)の校外活動で劇団四季の『ライオンキング』を鑑賞しました。壮大なスケールの劇に生徒たちは大変感動していました。

動物と化した人間

A組 後藤直

私は、劇団四季の『ライオンキング』のように、人間が動物を演じるという劇を見たことがなかったので、初めはどのように演じるのか疑問に思っていました。動物を操っている人は、違和感がないように着ている服がその動物の色になっていました。また、その動物やキャラクターが出しそうな声を出したり、その動物だと認識できる特徴的な動きをしたりと、さまざまな工夫がされていました。演技をしている人もすごいです。動物を演じる衣装や舞台の装置、生演奏など舞台を支える人たちもすごいです。今回、『ライオンキング』を見たことで、他のミュージカルも見たいと思いました。

ライオンの劇団

A組 望月創太

私は劇団四季の『ライオンキング』を初めて見に行きました。初めはミュージカルにはあまり興味がなかったのですが、見終えた頃には「また見たい」という気持ちに変わっていました。そう感じた理由は2つあります。

1つ目はミュージカルならではの歌や踊りです。映画の『ライオン・キング』は見たことがあり、歌は記憶にあったのですが、踊りは初めて見たので新鮮でした。まるで映画の『ライオン・キング』に入り込んだように感じ、感動したからです。

2つ目は動きやセリフのリアルさです。人が動物を演じているのにも関わらず、本物の動物と見間違えるほどの演技力に驚きました。セリフでもそのキャラクターの性格がわかるような口調で話していたのがとても興味深かったです。

映画の『ライオン・キング』も劇団四季の『ライオンキング』も、もう一度見たいと思いました。



人生初の『ライオンキング』鑑賞

B組 齋藤孝一郎

私は『ライオンキング』という作品を初めて見るので、どんなものか見る前から楽しみにしていました。実際に見てみると、出演者の声が大きくて、2階席の一番後ろでも迫力を感じました。歩き方1つでも、役の人柄や感情によって表現の違いがありました。映像にはない、人間の力で生み出された表現の工夫を感じました。シンバが大人になって王として、敵であるスカーを倒す姿がとてつもなくかっこよかったです。最後のシーンがこの話の中で一番迫力があり、特に自分の中で印象に残りました。また劇中では数多くの名言があり、「過去のことはもう忘れ、未来のことを考えた方がいい」という言葉が自分への励みになり、心に残りました。

シンバが教えてくれたこと

B組 仲井央輔

私が『ライオンキング』を見て感じたことは、この世のすべてのことを気にしていれば楽しくないということです。私は人の目を気にして行動してしまう癖があるので、劇中に登場する「ハクナ・マタタ」という言葉に感動しました。この言葉はスワヒリ語で「心配ないさ」や「気にするな」という意味があります。この言葉を聞いたシンバがこれまで気にしていたものから解放されて自由になっているシーンがありました。そこで私も人の目を気にせずに自由になれば、シンバのように明るくなれるのかなと思いました。また、その後に自分の責務を全うするシンバにも感動し、すべてを投げ出すのではなく、やるべきことはやらなければいけないということが心に深く残りました。

学年だより 高1

現代文明論学年発表会

高校1年生は12月23日に放送で現代文明論の学年発表会を行いました。現代文明の諸問題に対して各班が向き合い、素晴らしい発表をしてくれました。発表を聞いた生徒たちの感想をご覧ください。

WORLD PEACE | の発表を聞いて

1組 西澤 哲平

“WORLD PEACE”の発表は、「紛争」についてよく考えさせられる発表でした。紛争は民族同士や異なる宗教での対立、土地・資源の奪い合いによって起きてしまいます。日本は島国であるため、隣国同士の土地の争いや対立はありませんが、そうではない国々の現状を改善していくべきだと思いました。また、紛争による餓死者が3億3千万人もいることにとても驚きました。紛争が起こることで、苦しい思いをする人々が増えてしまうことに対し、紛争の影響がどれだけ悲惨なものかを考えさせられました。何の平和が大切かというアンケート結果で「世界人類の平和」が一番多かったことから、世界の人々がこの「平和」の維持を心がければ、「紛争」もなくなり、世界はより良い方向に進んでいくと考えました。

電子化は本当にエコなのか | を聞いて

2組 柴田 暖花

本校ではペーパーレス化としてタブレットを用いて授業を受けていますが、タブレットを用いない授業もあります。1枚1.5円する紙が1日に何枚も消費されていることを考えると、ペーパーレス化はされていないのではと思います。学年全員に1枚配ることを考えると3,000円にもなります。何気なく毎日使っている紙にもお金がかかっていると思うと、もったいないと思いました。この班は発表の仕方やスライドの文字の見やすさが素晴らしく、聞いていて理解しやすかったです。

バリアフリー | を聞いて

3組 齊藤 実和

バリアフリーを導入しているものは、意識せず生活している中にたくさんあります。しかし、ほんの少し意識すると思わぬところにもバリアフリーが取り入れられているものがあることがわかりました。最初は障害を持っている人のためのものだと考えていましたが、発表を聞いて障害者のためだけではなく、年齢にも関係があることを知りました。発表を通じて、我々が普通の生活で知っていると思っていることでも、意識して学んだりすることは大切なことだと改めて考えさせられました。

海洋プラスチック | の発表を聞いて

4組 大山 古都乃

まず、海洋プラスチックという言葉聞いたことがない人が3割もいることに驚きました。また、ほとんどの人が海などにゴミが落ちていても拾わないということに関しては自分もそうであったと思いました。街にゴミ捨て場を設置するのは良い案だと思いましたが、そのゴミを回収する人の負担が増えてしまいます。そこで、私たちのような若い世代が月に一度くらいゴミを拾うボランティア活動を行うことが良いと考えました。しかし、まずは一人ひとりの心がけて、路上にゴミを捨てない、分別をしっかり行うなど、簡単にできることを行っていくことが大切であると考えます。

ペーパーレス化 | を聞いて

5組 杉本 梨奈

ペーパーレスということを取り上げる着眼点が素晴らしいと思いました。私たちが普段利用しているクラッシーのアプリがまさにペーパーレスでありエコであると改めて感じました。発表者が述べていたように、パソコンが得意な人は、紙を使用したときにかさばることの負担から解放され、ごちゃごちゃしているたくさんの紙の中から情報を探す手間も省けます。書いて残すものは本当に大切なことだけよいということを知りました。発表を通して、「ペーパーレスにする=紙を一切使わない」ということではないと気づくことができて良かったです。

科学がもたらしたいいい面、悪い面 | を聞いて

6組 藤山 博輝

この発表を聞く前は、科学は人工知能などの良い面しかもたらさず、私たちの生活を便利にしてくれるだけだと思っていました。しかし、実際は原子爆弾のような私たちの生活を脅かす悪い面もあることを知り知らされました。そのような悪い面もありますが、リニアモーターカーやヘリコプター、気球などの乗り物をはじめ、私たちの暮らしを便利にしてくれるものがたくさんあることは間違いなく、今後うまく活用していくことが大切であると感じました。今後の科学の発展にも大いに期待したいです。

ペーパーレス化 | の発表を通じて

7組 豊川 蓮温

全体的にテンポが良く、発表者の伝えたい内容がすぐ伝わってくる発表でした。会社が紙を一カ月使い続けた場合の金額、使わないことによる効率化、生徒・先生が実際に使いやすいかなど、メリット・デメリットを簡潔にわかりやすく伝えていたのももちろん、多面的にペーパーレス化を言及していたのが、何より素晴らしい発表だと感じた点です。スライドの出来栄はもちろん、発表者3人の声量や滑舌の良さ、すべてにおいてレベルの高い発表だと思いました。アンケートで山梨県の高中生から意見を取り入れたり、先生方や自分たちの意見も取り入れ、かつ、なぜアンケートがこのような結果になったのかについても細かく分析しており、素晴らしい発表だと感じました。

WORLD PEACE | を聞いて

8組 河野 隼大

平和と紛争についての視点から発表が構成されており、現在世界では戦争している国がいくつかあるのでとても重要な問題であると感じました。日本は安全な国だから大丈夫という話もありますが、だからこそ世界の紛争について目を向ける必要があると感じました。また、客観的に日本を見ると日本は平和ではないという意見もあることに驚きました。普段、身のまわりしか見ていないので、平和であると感じてしまっていますが、もっと広い視野をもって生活をしていかなければならないと改めて感じさせられました。

社会的弱者と生きていくためにすべきこと | を聞いて

9組 白石 鈴雄

社会的弱者が自分の家族にいても、あまり周囲の人に言えない家庭が多いという事実がありますが、それは悪いことであって恥ずかしいことではないので、周囲の人々や国がサポートしていくことが大切であると思いました。発達障害を持つ人や支援を必要としている人が多い中、多様性を大切にして、誰でも暮らしやすい世界をつくるのが大切だと思いました。自分に何かできることがあれば協力したいと感じました。

ネットの平和 | を聞いて

10組 屋良 亜美

現代社会における大きな問題の1つであるインターネットの利便性と危険性を、劇などの手法を用いてわかりやすく表現していたと思います。令和の時代を生きる私たちの生活に、インターネットは欠かすことができないものとなっています。その一方で、炎上や誹謗中傷などの危険が身近にあることを再認識することができました。劇によってインターネットでの言葉を体現することで、その言葉の重みなどもわかりやすくなるのがわかりました。

学年だより 高2

主権者教育

高校2年生は港区選挙管理委員会の皆様をお招きして、12月11日・18日の2週にわたって主権者教育を行いました。18歳を迎える前のこのタイミングで選挙について考える良い経験となりました。生徒の感想をぜひご覧ください。

1組 原田 翼
私は主権者教育を通して、今まであまり関わりのなかった選挙が私たちの生活に深く関わっていることを知りました。私たち一人ひとりの一票が社会における発言となり、社会を変えるきっかけになります。選挙を他人ごとにするのではなく、私たちの将来を決める大切な機会として積極的に参加することが大切だと思いました。

2組 西川 啓史
選挙は自分たちの声が反映される非常に重要なものだと再認識しました。実際に模擬投票を行ってみました。とても緊張感がありました。大人になったらしっかりと適切な情報を取り入れて、投票していきたいです。

3組 大宮 元
主権者教育を通して、自分が今まで触れたことのない選挙に関してとても興味深く学ぶことができ、これからのためになったと感じました。僕が今まで考えていた選挙とは大きく違い、とても深く複雑な分野だと感じました。将来社会に関わる身になるため、主権者教育で学んだことを活かしていきたいです。

4組 一味 美乃莉
私は今まで選挙に対して身近に感じていなかったのですが、あと一年で投票できる年齢になることを実感しました。特に印象に残ったのは、「投票をしていない立場で国会議員に文句を言う権利はない」という言葉です。今回選挙について丁寧に説明していただいたことでとても有意義な時間になりました。今回の説明を生かして2024年の投票に生かしたいと思います。

5組 大高 怜柚
主権者教育を通して、一票の大切さを感じました。自分の持つ一票は小さなものですが、多くの人がその一票を投票することで大きくなり、影響力の強いものへと変わると学びました。また、実際に模擬投票体験を行ったことで、政治に少し興味を持ったと同時に選挙権が与えられたら投票に行こうと思いました。

6組 伊藤 新菜
私は主権者教育を通して自分の政治に対する意識が大きく変わりました。講習を受ける前は、自分が投票しなくてもあまり結果や今後に関係することはないと考えていましたが、自分が投票した人が当選しなくても、その一票が候補者にとって今後の活動のモチベーションや現状の改善につながることを知りました。2024年からそのような意識を持って、選挙に向かいたいと思います。

7組 瀧本 廉太郎
今回の主権者教育を通して私は、今の日本の選挙の問題点を知りました。例えば、現代の10代での投票率が約30%というのは問題点だと思います。また、選挙会場での流れや本物の投票箱に投票用紙を入れることができたのは、良い体験になりました。今回の話を聞いて、自分が成人になった時には投票に行きたいと思いました。

8組 咲本 朝陽
主権者教育を通して選挙のイメージが私の中で大きく変わりました。今までは、投票に行かなくてもいいだろうと思っていましたが、模擬投票や選挙について授業を受け、選挙は私たちの意見を反映できる数少ない方法で、私たちが快適に生活するために必要なものだと感じました。2024年の選挙で政治に参加できるのが楽しみです。

9組 高橋 勝偉
主権者教育を通じて、国民一人ひとりが社会的な責任感や民主的なプロセスに関する知識を深めていく必要があると感じました。そしてこの国が民主主義である意義を理解し、実行することで初めて我々は「主権者」としての意味を成すのだと思いました。2024年から選挙権が得られるので、政治に関心を持ち、明確な意志を持って投票所に行こうと思います。

10組 江澤 虎乃介
私は主権者教育を通して選挙に対する考え方が変わりました。以前までは、選挙は面倒な手順を踏み、時間がかかるものだと思っていました。しかし、主権者教育の模擬投票を通して、選挙に対するネガティブなイメージは消え、むしろ選挙に対する関心が大きくなりました。私が18歳になったらぜひとも自分の手で投票してみたいです。



投票用紙に記入しています



模擬投票を行いました



開票の様子です

学年だより 高3

最後のスポーツ大会

12月5日に最後の学年行事であるスポーツ大会が本校アリーナで実施されました。本来ならば10月にさいたま総合グラウンドにて実施される予定でしたが、約2カ月遅れで他学年の体育の授業を調整してもらい、なんとか開催することができました。競技の最後には学年全員で記念撮影もし、高校生活最後の良い思い出になったのではないのでしょうか。生徒たちの感想を紹介します。



スポーツ大会の感想

- 2回目の移動体育ができなかったが、このような形でスポーツ大会をできたので、先生方や1、2年生の生徒に感謝です。最後のスポーツ大会で、みんな出し惜しみなく全力で競技を楽しめたので良かったです。
- 3年生全体としての最後のイベントになるので、皆が真剣に取り組んでいて、良かったと感じた。大縄跳びでは、かけ声によってクラスの団結力が生まれたと思った。
- クラスでの最後の行事だったので、とても楽しめました。特に円陣を組んだ時が楽しかったです。
- 昨年度は前半と後半に分かれて行ったので、今年度は全クラスでできて良かったです。
- 高校生最後の行事で今まで一番楽しかった。特別講座になったりして、2年間一緒だったクラスで集まることも少なくなっていたから、最後の綱引きなどみんなで盛り上がって良かった。
- 部活動で大会があり体育祭に参加することができなかったのも、このように3年生で楽しい時間を過ごすことができて良かったと感じています。
- 最後のイベントとしてスポーツ大会を企画してくださった先生方に感謝したい。どの競技も白熱して、体育祭の時に負けないうらい盛り上がった。

- 最初は高輪台に入学するのが不安で、地元の友達が多いところに入れば良かったと何回も後悔していたけれど、すぐにみんなのおかげで「この学校に入学して良かった」と思いました。ありがとう。
- 自分のクラスが一番落ち着くし、誰ともうまく接することができるのは、みんなの優しさがあるからだった。
- オンライン授業で教室に行けなかった期間が長かったりもしましたが、いつも仲良くしてくださりありがとうございました。とても充実した3年間になりました。
- 仲間がいなかったらここまで頑張れませんでした。どんな時も支えてくれて、助けてくれてありがとうございました。
- 人生で一番濃くて楽しい3年間に皆に支えてもらって過ごせたこと、本当に感謝しています。残りの時間も大切に過ごしたいです。
- 一生に一度しかないこの高校生活を、忘れることのできない大切な思い出を、一緒に作ってくれてありがとう！高輪台に入って本当に良かったです！



卒業まであと1カ月。3年間一緒に過ごしてきた仲間へ一言



お知らせ

「第42回障害者週間記念事業～ともに生きるみんなの集い～」に参加 (主催:港区)

ダンス部ダンスリーダー 2年9組 鈴木 暁

私たち、中高ダンス部は2023年12月2日に行われたイベントに招待していただきました。今回のイベントでは、観客の皆さんが楽しめる作品にしようと考えました。観客の皆さんが知っている曲を使うことで、観ていてワクワクするような踊りにし、そして皆さんがさらに楽しめるよう、一緒に踊れる振り付けにしました。振り付けは覚えやすいように歌詞に合わせて、手話を使ったりとこだわりました。観客の皆さんが楽しそうに踊ってくれたので良い作品になったと思います。最初は緊張しましたが、観客の皆さんが楽しそうにしている様子を見て心が和んだので、楽しく踊り忘れられない思い出になりました。



「第34回忠臣蔵赤穂義士行列」パレードに参加 (主催:財界二世学院 赤穂義士行列実行委員会)

2年2組 中川 千聖

このような貴重な体験ができることはなかなかないと思い参加しました。行列では槍や刀を持ちながら、毎年参加している地元の人と交流しながら長い道のりではありましたが、それを感じないくらい楽しく歩きました。最後に泉岳寺に着いた時には歩道に収まらないほどのたくさんの人がいて、私たちに拍手や声をかけてくれたり、とても嬉しかったです。来年度もできるのであれば参加したいです。



1年9組 高柳 旬

今回初めて参加して、刀を持ち歩くことが想像していたよりも大変でした。歩いているうちに歴史を感じ、楽しみながら参加することができました。今回、参加することができ、嬉しく感じました。また地域の行事に関わることができ、嬉しく感じました。また地域の行事があったら、積極的に参加していきたいです。



行事予定

※予定が変更になる場合があります。

February 2月

March 3月

- 1日(木) 中等部第1回入学試験(生徒自宅学習日)
Tokyo Sightseeing Tour(中1)
- 2日(金) 中等部入学試験合否発表(Web発表)
- 3日(土) 中等部第2回入学試験(生徒自宅学習日)
- 4日(日) 中等部入学試験合否発表(Web発表)
- 5日(月) 中等部第3回入学試験(生徒自宅学習日) マナー講座(中3)
- 6日(火) 中等部入学試験合否発表(Web発表)
- 7日(水) 朝礼・短縮授業 5・6限カット(2/3分) 答案返却(中3)
- 9日(金) 高校一般入学試験準備
- 10日(土) 高校一般入学試験(生徒自宅学習日)
- 11日(日) 建国記念の日
高校一般入学試験合否発表 中3海外英語研修(~20日)
- 12日(月) 振替休日
- 13日(火) 5・6限カット(2/10分) 校医相談日⑩
- 15日(木) 月曜日の授業日
- 18日(日) 新入生制服採寸・教材販売(中等部・高校推薦)
- 21日(水) 中3生徒休業日(~24日)
- 23日(金) 天皇誕生日
- 24日(土) 高3登校日
- 25日(日) 新入生・保護者登校日(中等部)
新入生制服採寸・教材販売(付属・高校一般)
- 26日(月) 生徒自宅学習日
- 27日(火) 後期期末試験(中等部~29日、高校1・2~3月1日)

- 1日(金) 期末試験(高1・2)
- 2日(土) 3年生を送る会 高3卒業式予行
2限から特別授業日①
- 新入生制服採寸・教材販売(高校延納者)(AM)
卒業式準備(PM)
- 3日(日) 第75回(高校)・第15回(中等部)卒業証書授与式
- 4日(月) 振替休日(3/3分)
- 5日(火) スポーツ大会(高2) 特別授業(高1・中等部)
- 6日(水) スポーツ大会(高1) 特別授業(高2・中等部)
- 7日(木) 基礎力判定テスト(高1・2)
- 8日(金) 答案返却(5・6限カット 3/2分) 教科書配布(新高3)
- 9日(土) 特別授業日②
- 13日(水) 特別授業日③
- 14日(木) 特別授業日④(5・6限カット)
- 15日(金) 特別授業日⑤
- 16日(土) 特別授業日⑥
- 18日(月) 特別授業日⑦
- 19日(火) 修了式・離任式 教科書配布(新高2)
- 20日(水) 春分の日
新入生クラス分け試験(高校)
- 30日(土) 後援会委員総会④(14:00~)

編集後記

インターネットで「高潔」と入力しようとしたら、予測変換で「高血圧」になってしまい、気づいたらそのままこの最大の生活習慣病リスクについて調べていました。いままさですが、血圧の上昇は主に食塩の過剰摂取によって引き起こされ、飲酒や喫煙と並んでがんや脳卒中、心筋梗塞を引き起こす要因の一つだと考えられています。現在は昔よりも愛煙家にとって冷たい環境が整備されていますが、愛“塩”家に優しい時代は到来するのか、それとも愛“宴”家を甘やかす風潮が続いているように改善されることはないのか、興味深いところです。(の)

東海大学付属高輪台高等学校・中等部

TEL.03(3448)4011 FAX.03(3448)4020 ホームページ: <https://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>